**メガウィンド**

時間とパワー――その2つが両立し得ないと誰が決めたのか？象徴とも言えるHM3シリーズから生まれたメガウィンドは、22Kゴールドとチタン製の巨大なワインディングローターと、まるで先端を切り取られた金縁のモノリスのように複雑な非対称形のケースから突き出た、非常に読みやすい時間表示コーンとを兼ね備えている。

ゴールドとサファイアクリスタル製の2つの円錐台の内側で回転しながら、左のコーンは時間を、右のコーンは分を表示している。時刻はコーンの側面の大きな数字から、そして平らなキャップからと二通りの表示ではっきりと読み取ることができる。

とはいえ時間表示と分表示を内に収めた三次元彫刻が見る者の目を引きつけようとするのは一瞬で、その目を虜にするのは入念に手仕上げされたムーブメントの上でゆったりと、しかし断固として振れる巨大なバトル･アックス型の巻き上げローターではないだろうか。

頑丈だが軽量のハイテクチタン製であるローターのアームが回転すると、その向こうにテンプが熱く振動する姿が見え隠れする。

制御なしにパワーは意味をなさないが、メガウィンドはその両者を見事に調和してみせる。

メガウィンドを動かしているのはジャン＝マルク･ヴィーダーレヒト設計の見事に製作されたHM3のエンジンである。ローターとレギュレーターを文字盤側に配するためにはムーブメントを反転させる必要があった。これを可能にしたのは背部ディスプレーから見える2つの大きなハイテク･セラミック･ベアリングであり、上部で回転する時間表示コーンと分表示コーンに時刻を効率的に伝えている。これほどのサイズと形状のドームを回転させるには、技術的な多くの課題を伴った。時間ドームと分ドームは、理想的な強度重量比ゆえに選ばれたアルミニウムの塊から機械加工されているため、必要なエネルギーが究極まで抑えられている。

50以上の独立した部品で構成されたケースに詳しく眼を向ければ、縁に傾斜をつけ角度によって光のきらめきを捕らえて反射する魅力的な外観のクリスタル製ローター･ディスプレーや、ネジ山がクローバー型の特別製ゴールドネジ、巧みに一体化されたストラップ用のラグ等、そこには入念に考え抜かれた無数のディテールが見て取れる。

メガウィンドは22Kレッドゴールドのローター付きのレッドゴールドもしくは22Kスカイブルーゴールドのローター付きのホワイトゴールドが販売される。

**メガウィンド**

**インスピレーションと具現化：**

オリジナルのHM3は美しく仕上げられたムーブメントの動きを見せるために開発されたが、メガウィンドも同じ原則を踏襲している。調和に配慮して製作されたブリッジ、すばやく振動するテンプ、ギヤリング、MB&Fの象徴であるバトル･アックス型の自動巻きローター、その全てが文字盤側から見て取れる。これにより、着用者はHM3を構成する芸術と技術を堪能することができ、300以上の高精密部品からなる非常に複雑なマシーンの内部は周囲の人をも魅了する。

HM3のムーブメントは文字通り反転しているので、途切れることなく22Kゴールドおよびチタニウムの巻き上げローターが描く力強く優雅な弧と、テンプの高速振動の全てを見ることができる。ブッサーとデザイナーのエリック･ジルーによるスケッチとデザインを時計として具現化する使命は、2007年度ジュネーブ時計グランプリで新設されたベスト･ウォッチメーカー･アワードの初代受賞者であるジャン＝マルク･ヴィーダーレヒトに託された。アジェノー社の自らのチームと共にこの課題に取り組んだ彼は、期待以上の結果をもたらした。

**表示：**

時間表示コーンと分表示コーンはアルミニウムの塊を紙の薄さにまで削って作られた。これらのコーンはゴールドとサファイアクリスタルをロウ付けした立体的な円錐台の中に収められている。ロウ付けは高温はんだ付け技術であり見た目にも美しく、堅牢な耐水性も確保できる。

**メガローター：**

大きなローターというアイデアとメガウィンドという名前を最初に思いついたのは、フィンランドの独立時計師ステファン･サルパネヴァ（MB&Fのムーンマシーンの共同クリエーター）である。ミステリー･ローターと呼ばれるのは文字盤上にあるMB&Fの象徴といえるバトル･アックス型ローターが2枚の22Kゴールド製の刃を持っているためである。本来は左右の重量が非対称であるべきローターが外見上左右対称なので、物理の法則に逆らっているように見えるからである 。この「ミステリー」は機械加工で片方の刃の裏面を極限まで薄くし、重量を減らすことで実現された。

**セラミック･ベアリング：**

普通であれば、時間表示はムーブメントの上部、または文字盤側にある。HM3のムーブメントはその動きが見えるよう反転しているため、動力をムーブメントの底面から時計の一番上にあるコーンへ伝える効率的な解決策が必要となった。宝石にはめ込む従来の歯車ならば複雑で摩擦が生じる歯車装置が必要となり、また、上下を宝石で支える必要がある。それでは、ムーブメントに厚みが出てしまい、時計自体の厚みも増してしまう。

そこでHM3には、宝石にはめ込む従来の歯車の代わりに、直径の大きな（15mm）2つのハイテク･セラミック･ベアリングが採用されている。直径の大きなベアリングを使用することにより摩擦を引き起こす歯車の数が最小限に抑えられ、また超高精密設計と製造により剛性を得たベアリングは一端（底面）を支えるだけでよく、より薄いムーブメントを作ることを可能にした。

**メガウィンド技術仕様**

**エンジン（ムーブメント）：**

アジェノー社のジャン･マーク･ヴィーダーレヒトにより設計された3次元オロロジカル･エンジン

ソーウィンド社製オシレーターおよびギア

バランス振動数28,800振動／時

3つのパーツからなる自動巻きローター：22Kゴールド製の外辺部を持つチタニウム製のハブ、4ヶ所でリベット留め

時刻表示はセラミック･ボールベアリングを経由して伝えられる

宝石数：36石（全てが機能上のもの）

部品数：270

**機能：**

一方のコーンに時表示

もう一方のコーンに分表示

**ケース：**

18Kホワイトゴールド／チタニウム製および18Kレッドゴールド／チタニウム製を販売

ネジ式リューズ

寸法（リューズおよび突起部分を除く）：47mm x 50mm x 17mm

ケース構成部品数：52

**サファイアクリスタル：**

サファイアコーンおよび、両フェイスのディスプレイクリスタル前面部と背部は両面ともに反射防止加工

**ストラップおよびバックル：**

黒の手縫いワニ革およびカスタムデザインの18Kチタン製フォールディングバックル

**メガウィンドを創った「フレンズ」たち**

コンセプト： マキシミリアン･ブッサー／MB&F

製品デザイン： エリック･ジルー／エリック･ジルー･デザイン･スタジオ

技術･製造管理： セルジュ･クリクノフ／MB&F

R&D：ギョーム･テヴナン／MB&F

ムーブメント開発：ジャン＝マルク･ヴィーダーレヒト、

ニコラス･シュタルダー／アジェノー

ムーブメント製造：ジョルジュ･アウエール／メカウォッチ

ムーブメントベース：ステファノ･マカルーゾ、ラファエル･アッカーマン、

スティーブ･スターチオ／ソーウィンド

ローター：デニ･ヴィラール／サンドレ＋メトー･ギャレタン社

セラミック･ボールベアリング： パトリス･パリエッティ／MPS

ムーブメント組み立て:　ディディエ･デュマス、ジョルジュ･べジー、

アレクサンドル･ボネ、ベルトラン･サゴリン＝ケロル／MB&F

ケース、バックル組み立ておよび製造： フィリップ･マルティ、 ドミニク･メニエ、ベルトラン･ジュネ／G.Fシャトゥラン、

サファイアコーン： セバンスチャン･サンシュ、 グレゴリー･エスリック／スバル、

ピーター･ボレシュ／ボレシュ

文字盤： フランソワ･ベルンハルト、 デニス･パレル／ネイトバー

ストラップ： オリヴィエ･プルノー／カミーユ･フォルネ

化粧箱： イザベル･ヴォドー／ヴォドー、フレデリック･ルジョンドル／レコニ

製造ロジスティクス：デービッド･ラミー／MB&F

マーケティング･コミュニケーション： シャリス･ヤディギャログル、

ヴィルジニー･メイラン、エレオノー･ピチオット／ MB&F

M.A.D.ギャラリー：エルベ･エティエンヌ／MB&F

販売：アレクサンドル･デービッド、パトリシア･デゥビラール／MB&F

グラフィック･デザイン：ジェラルド･ムリエール、

アンソニー･フランクリン／GVAスタジオ

製品撮影：マーテン･ファン･デア･エンデ

ポートレート撮影：レジス･ゴレ／フェデラル

ウェブサイト：ステファン･バレット、ギローム･シュミッツ／スモー･インタラクティブ

テキスト：イアン･スケラーン／アンダーセディアル

**MB&F　―　コンセプト･ラボの起源**

15年間にわたり格式高い時計ブランドの経営に携わってきた中でマキシミリアン・ブッサーが最も充実感を味わったプロジェクトは、才能豊かな独立した時計職人たちと共に働くことだった。はっきりと見えてきたブッサー独自の理想郷。それは自身が尊敬し、仕事を共にして楽しかった才能あるプロフェッショナル達と型破りなコンセプトを持つ小規模な腕時計シリーズの設計･制作に専念できる会社の設立であった。企業家としての一面も持つブッサーはその理想郷を現実のものとした。

MB&Fは腕時計のブランドではなく、芸術とマイクロ･エンジニアリングをコンセプトにした研究所であり、斬新なオロロジカル･マシンを設計･制作するために毎年召集される独立した時計のプロ集団である。伝統を重んじながらもそれに縛られることのないMB&Fは、伝統的で高品質な時計作りに最先端技術やアバンギャルドな立体彫刻を融合させる媒体となっている。

MB&Fが初めて手掛けた時計「オロロジカル・マシーンNo.1（HM1）」は2007年に発表され、立体的構造のオロロジーというコンセプトを世に知らしめた。これに続き、サイエンスフィクションテーマとしたHM2とHM3がそれぞれ2008年と2009年に発表された。2010年には、MB&Fの最も大胆なマシンであるとの呼び声高い「HM4サンダーボルト」が発表された。そして、2011年には伝統にインスパイアされた新たなラインである「レガシー・マシンNo.1」が登場した。2012年に発表されたHM5は70年代の未来的アイコンからヒントを得た作品となっている。

**マキシミリアン･ブッサー　―　経歴**

イタリアのミラノで生まれたマキシミリアン･ブッサーは、その後、間もなくしてスイスのローザンヌへ移り住み、そこで青年時代を過ごす。多文化な環境と家族の中で育ったため―父親はスイスの外交官で、インド国籍の彼の母親とムンバイで出会っている―ブッサーは自身の人生とビジネスに対し異文化的な幅広いアプローチを取るようになった。

2005年7月、38歳の時に世界初となる時計のコンセプト研究所、MB&F（マキシミリアン･ブッサー＆フレンズ）を設立。現在はセルゲ･クリクノフをパートナーに迎えている。気の合う仲間で構成された少数のハイパークリエイティブなグループで協力し、型破りな時計のコンセプトの開発に専念できる自身のブランド。それが、ブッサーがMB&Fに抱く夢である。

企業活動はマキシミリアン･ブッサーの得意分野である。1998年、彼は弱冠31歳でハリー･ウィンストン レア･タイムピース社のマネージング･ディレクターに任命された。7年間にわたり、ブッサーは戦略、製品、マーケティング、そして世界規模の流通を開拓すると同時に、デザイン、研究開発、製造を社内で統合し、ハリー･ウィンストンを広く認められた本格的な高級時計ブランドへと成長させた。その結果、売り上げは900パーセント増加し、ハリー･ウィンストンは競争が厳しいこの業界のリーダーの一員となった。

マキシミリアン･ブッサーの最高級時計への愛着は、彼の最初の職場となるジャガー･ルクルトで確立された。1990年代に彼がシニア･マネージメント･チームに在籍し、製品管理･開発からヨーロッパ地域の販売及びマーケティングに至るまでを担当していた７年間で、JLCはその地位を大きく向上させ、売り上げを10倍に伸ばした。

ブッサーは1991年にスイス連邦工科大学ローザンヌ校のマイクロ･テクノロジー･エンジニアリングの修士課程を卒業している。